

久留米大学を受診した患者さんへ

「鏡視下腱板縫合術（ARCR）後における複合性局所疼痛症候群（CRPS）発生の危険因子についての検討」の研究に使用する資料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の資料を使用します。

- 1) 期間：2009年1月から2014年11月
- 2) 受診科：整形外科
- 3) 対象疾患名：腱板断裂、
- 4) 使用する資料：年齢、性別、糖尿病の有無、外傷の有無、拘縮の有無、罹患期間、関節可動域（屈曲、外転、内旋、外旋）、VAS（安静時痛、運動時痛、夜間痛）、JOAスコア、手術時間、術中の手術所見（断裂の大きさ）、灌流液量

あなたの資料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大 整形外科教室
研究代表者：助教 胤末 亮
研究分担者：准教授 後藤 昌史

2) 研究の意義と目的:ARCR術後におけるCRPSは重篤な合併症のひとつであるが、CRPS発生について調査した報告はまだ少ない。そのため本研究の目的はARCR術後のCRPS発生の術前危険因子について検討することである。

3) 研究の方法：2009年1月から2014年11月までに久留米大学医療センターにてARCRを施行した患者に対して後ろ向きにCRPS発生について調査するものである。また同時期に反復性肩関節脱臼に対して鏡視下バンカート修復術を施行した20例をコントロール群として調査する。

統計学的解析は、 χ^2 乗分析、ロジスティック回帰分析で行ない、危険率5%未満を有意差ありとする。

4) 研究期間：平成27年2月倫理委員会承認後～平成29年3月

5) 上記の資料の使用を選定した理由：術前の危険因子を評価していくため、術前に評価できる項目はすべて調査項目として選定した

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：連結可能匿名化

7) 研究成果の発表の方法：学会報告、医学雑誌への投稿

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

代表者氏名：胤末 亮

住所：830-0011 福岡県久留米市旭町67

TEL：0942-31-7568

FAX：0942-35-0709

研究番号 14233